

学校だより

Vol.

114

2023年4月発行
(2022.10~2023.3)

Contents

- 02 専攻科修了式・本科卒業式告辞
- 04 祝 卒業・修了
- 14 卒業生・修了生の進路
- 17 学生会
- 18 学生の活躍
- 20 小論文コンクール
- 21 TOPICS
- 28 福島高专創立60周年記念式典
- 30 カーボンニュートラル社会連携講座を開催
- 31 磐陽祭2022を開催
- 32 退職者挨拶
- 35 新任教職員紹介



独立行政法人国立高等専門学校機構

福島工業高等専門学校

National Institute of Technology (KOSEN), Fukushima College



第18回専攻科修了証書授与式 第57回卒業証書授与式 告辞



福島工業高等専門学校
校長 山下 治

修了生・卒業生諸君、
修了・卒業おめでとうございます。

春が訪れ、学生諸君の
旅立ちの時が参りました。
新型コロナウイルス
の感染が続く中ではあり

ますが、本日、昨年に引き続き保護者の皆様もお迎え
して、また、久しぶりに素顔を見ながら卒業式が挙行
できることを皆様と共に喜びたいと思います。

この度、本校を巣立つのは、専攻科の、産業技術シ
ステム工学専攻22名、及びビジネスコミュニケーション学
専攻2名の専攻科修了生計24名、並びに、本科生
として、機械システム工学科43名、電気・電子システ
ム工学科40名、化学・バイオ工学科39名、都市システ
ム工学科36名、ビジネスコミュニケーション学科39名の
計197名です。

修了生・卒業生の保護者・ご家族の皆様には、本日
御卒業のお子様を、このように立派に育て上げられま
したことに、敬意を表しますとともに、心からお祝い
を申し上げます。学生諸君には、皆さんのここまでの
成長は、ご家族の愛情と支援、教職員の熱心な指導の
お陰でもあり、諸君を育み共に困難を乗り越えてくれ
たすべての方に、感謝の気持ちを持っていただきたい
と思います。

修了生・卒業生の皆さん、諸君がこの度卒業・修了
を迎えることができるのは、これまで、日々、勉学に
励み、精進を重ねてきた結果でもあり、3年に渡るコ

ロナ禍の中で遠隔授業、大会・イベントの制限があっ
たにも関わらず、これをやり遂げたこと。また、本校
の学生の中には、数々のコンテストで日本トップレベ
ルの成果を見せてくれたことで、私は皆さんの潜在力
の高さを誇りに思っています。皆さん一人一人も、同
様の潜在力が備わっているものと自信を持ってこれか
らの人生を切り開いてください。

さて、皆さんが、これから生きていく社会は、悪く
言えば「先が見えない不透明な社会」、よく言えば、人
類がこれまでできなかった夢が実現する楽しい社会、
最近「スマート社会」とも言われています。そして、
人生を築くのは皆さん自身です。「人は意志と努力に
よって人生を作り上げることができます。」そして、AI
(人工知能)では持ち得ない自らの「意志」を持ってこ
れからの道を歩んでいただきたいと思います。

そこで、これから自らの意思を実現し、充実した人
生を送るため、「はなむけ」の言葉として、皆さんに心
がけてほしいことを4点申し上げます。

まず1点目ですが、「正しい目標を持つ」ということ
です。

目標は、人それぞれに与えられた運命と意志によっ
て千差万別です。では、正しい目標とは何か？(そこで、
皆さんには目標を設定するに当たり正しいか否かを判
断する基準が必要になります。)福島高専のスローガン
には「持続可能な社会発展を目指し」とありましたね。
ここで言う持続可能な社会発展を目指すとは、地球全
体に配慮しつつ人類の「Well Being (幸福)」を目指
すという意味が込められています。「Well Being (幸
福)」とは、紀元前にアリストテレスが究極の目標とし
て掲げた「エウダイモニア」に端を発します。今であ



ればその一つに「持続可能な社会」を構築するという目標「SDGs」があります。「これらは、一国だけではなく、人類全体が、豊かに、かつ幸せに暮らし続けていくための方針となっています。これを判断基準の一つとして、皆さんには、学んだ知識や技術を現在及び将来の人類の幸福のために使ってほしいと思っています。

2点目は、問題解決にあたり「正しい手順を踏む」であります。今は、価値観が多様化し、何が正しいのか？解らないことも出てきます。皆さんは「適正手続き」ということを知っていますか？行政の世界では、正しい内容であっても、正しい手続きを踏まないと主張ができないことになっています。数式の証明や実験・実習においても手順が大切です。私が大学生の時出会ったアメリカの作家のデール・カーネギーの「道は開ける」という本に問題解決のための正しい手順が載っています。要約すると、問題解決のためには、①事実の把握、②事実の分析、③決断（正しい判断）そして実行、の三段階が必要であるということです。本格的な悩みに当たったときは、これが成長のチャンスと捉え、三段階の正しい手順を踏んでじっくり考えてみてください。「道は必ず開けます」。

3点目です。「レジリエントであること」です。人生には、順調に進むこともあり、停滞や後退することもあります。困難に負けずに新しいステージに進むためには、復元力、粘り強さ、つまり「レジリエンス」が必要です。

レジリエントであるために必要なことの一つは、学び続けることです。高専生は、大学生よりも2年早く社会に挑戦できる専門能力を身につけます。この早期専門教育は世界的に評価されています。しかし弱点も

あります。弱点を素直な気持ちで受け入れ、学び続けることでその弱点を補いつつ利点である専門能力を強化し「レジリエント」に社会で活躍してほしいと思います。困難を超えるたびに皆さんは強くなり、新しいステージで新たな景色が展開します。あとで振り返れば、必ずや楽しい思い出になるでしょう。

ただ、努力は持続可能であることが重要です。ヘロドトスという歴史上の人物は「弓は張ったままにしない」という名言を述べています。日々の努力を忘れず、適度に休養し、これからの人生を楽しんで下さい。

4点目ですが、「ルーツを大事にすること」です。先週、東日本大震災後12年を迎えました。「福島復興なくして日本の再生なし」と言われています。福島の復興はまだその途上にあります。その思いを肌で感じている皆さんには、福島の復興、ひいては日本経済復興に向け活躍すべき理由があります。活躍とは何か？それは人々の「Well Being（幸福）」を実現することです。難しいことはありません。活躍の対象をはじめは自分自身の幸福に、そして、家族に、地域に、日本へ、世界へと広げていけばいいのです。本校が掲げる「グローバルに活躍する」というスローガンの意味は、世界的視野を持って地域で活躍するという意味ですが、世界で活躍するためには、自分のルーツを説明できること、大事にすることも必要です。そして、皆さんのルーツである故郷（ふるさと）福島を忘れないで、地元の復興・発展に貢献していくという意志を持ち続けていただきたいと思います。

最後に、高専の教育は裏切りません。培った高専スピリッツを生かし、レジリエントに自らの意志を実現してほしいと思います。諸君のこれからの人生が、幸多いものであることを祈念して告辞と致します。



Bon Voyage

5年担任 松尾 忠利

ご卒業おめでとうございます。高専での思い出を胸に、光輝く未来へと船出する皆さんを、「行ってらっしゃい」と見送りたいと思います。

新型コロナウイルス予防のため、3年生の始業式の翌日から休校・遠隔授業になりました。どんな3年間になるのだろうと、私自身は一抹の不安を抱きましたが、前担任の石原先生の手厚いご指導のおかげもあり、君達は、就職・編入学試験等を突破してくれました。在学中に卒研や課題等で苦労した経験は、これから直面する荒波を乗り越えるための貴重な海図となるでしょう。人に勝つことよりも自分に負けない人間を目指し、人のために汗と涙を流せる人間になってくれることを期待しています。何事にも失敗を恐れることなく挑戦することで、周囲から可愛がられ、必要とされる社会人となってください。

何かニュースがあったら（無くても）、「ただいま」と研究室のドアを開けて、知らせと共に成長した姿を見せてくれると嬉しいです。

私にとっての高専とは

5年 遠藤 謙介

この学校は、ただの学び舎ではなかった。

私達は、毎日のように降り注ぐレポートと課題の雨を5年間耐えしのいだ。気が遠くなるほど難解な専門分野を、自分の心が突き動かされるままに学んだ。とにかく、必死だった。

気がつくと、あっという間に卒業の時期になっていた。もうすぐ高専生活が終わる。振り返ると、今までにこなした課題、実習、研究…。その全てが私の自信になっていた。

高専で過ごした年月は、私を変えてしまった。課題で苦しめられ、憎いはずの先生方の姿に、憧れている自分がある。5年前は知りもしなかった分野に、興味をひかれてやまない。自分の頭と手で、何かを作りたい。そんなの無理だと言われても、やってみたくてたまらない。私は、挑戦する人になった。

ここは、ただの学び舎ではない。技術と知識を武器に10代から戦わせてくれる場なのだ。高専という環境でなければ私は変わらなかった。ここを選んだことを、誇りに思う。

電気電子システム工学科

Electrical and Electronic System Engineering



贈る言葉

5年担任 橋本 慎也

ご卒業おめでとうございます。

この3年間は新型コロナウイルスとの関わり合いの日々で、色々と苦慮した記憶が残っています。

ただ、クラス運営に関しては、自分が想定していた大変さの2/3ぐらいだったかなという感覚です。

皆さんが「大きな人間関係のトラブルを起こさなかったこと」、「担任に対してきちんと報告・連絡・相談をしてくれたこと」、そして、「(危なっかしい場面はありましたが) 重要な局面で頑張ってくれたこと」のおかげだと思っています。

この3つはこれからの人生でもとても大切です。

人間関係も大切、「ほうれんそう」も大切、重要な局面で逃げずに頑張ることも大切です。

重要な局面の見極めは意外と難しいものですが、これは自分の過去の失敗が素敵な上司・先輩が教えてくれますので、反省と人間観察は疎かにせずにご過してください。

皆さんのこれからの活躍に期待しています。

成長した皆さんに会える日を楽しみにしています。では、また。

ありがとうございました！

5年 松本 蒼矢

高専に入学してから5年が経ち、卒業を迎えることができました。入学式の日を思い出すと、期待と不安が入り混じった気持ちがよみがえってきます。

1年生として入学し、学級委員長としての仕事に挑戦しました。不安を感じたり、自信が持てなかったりした時期もありましたが、クラスメイトや先生方のサポートをうけたおかげで、やり抜くことができました。ありがとうございます。

そして、私たちの学生生活は、まさに新型コロナウイルスの流行に翻弄させられました。授業は遠隔になり、友達と会えない日々が続きました。当初は、不安を感じ、学校行事が中止になったこともあり、やりきれない思いを抱いたこともありましたが、しかし、この経験を通して、友達や家族、そして先生方の存在のありがたさを再確認することができたと思います。

先生・友達・家族など、たくさんの方々のおかげで充実した生活を送ることが出来たと思います。5年間本当にありがとうございました。



De-school ourselves! “脱・学校”の日に

5年担任 車田 研一

高専という学校に日々勤めながら大いに矛盾しますが、このいかにも学校チックな「担任」という役回りに居るとき、いつも、できるだけ学校らしくない時空間が何とか演出できぬかと切に悩むのです。いくら高専が＜実践性＞を標榜しても、学校はいつも妙に学校っぽ過ぎ、これにはいささか天を仰ぎ皮肉交じりに苦笑することがしばしばです。また、それがかけがえないところなのでしょうが、やはり学校には独特の甘酸っぱさが横溢しています。その意味で「学校に色々やり残していることが随分ある！」と、多寡様々にせよ悔やみを懐くのは間違っていない…貴方も、私も。しかし、自らの未業への怨嗟こそが我々凡人の明日への回転トルクです。今まさに生命力に溢れた皆さんに、あいつはまだみっともなく汗かいているのか！と呆れてもらえるよう、明日からまた自分の路で頗る不細工な努力を続けることを誓って已みません。どうか皆さんが永く健康に恵まれますように。

福島高専でよかった

5年 酒井 琉衣

自分の受験番号を見つけ喜び合ったあの日から、もう5年の月日がたったことへの驚きや、これから社会人としての生活が始まることへの不安など、不思議な気持ちで胸がいっぱいです。

この5年間で私は友人という最も大切な財産を身につけることができました。友人が誰一人いなかった入学式から、今ではクラスや学年を問わずに数多くの友人を作ることができ、一生関わっていく大切な仲間を見つけることができました。様々な学校行事を共にしたクラスメイト、お互いに切磋琢磨し合った部活動のみんな、本当に5年間ありがとう。

私は今までの学校生活で常に心に留めていた言葉があります。「自信を獲得するには、難しい状況に立ち向かっていくしかない」私が尊敬するイチローさんの言葉です。これからの生活は今までと大きく変わり、逃げ出したくなるときもあるかもしれませんが、ただ、そんな時にこの言葉を思い出して、問題に正面から立ち向かって頑張っていこうと思います。

最後になりますが、福島高専で出会ったすべての方々、本当にありがとうございました。

都市システム工学科

Civil and Environmental Engineering



新たに学んだ3年間

5年担任 齊藤 充弘

みなさん、卒業おめでとう！

3年生で担任を引き継いだと思ったら、次の日から休校と遠隔授業となり、担任としては新たな試練を与えられたスタートでした。過去の経験をそのままいかすことができない、朝のホームルームにしても学級運営にしても、試行錯誤の繰り返しでした。つついコロナ禍だからとクラス内のさまざまな状況を流してしまう自分もいて、あわてて進んだ道を引き返すことの繰り返しでした。

それでも、学科としては3年ぶりに対面で開催した卒業研究発表会、日頃出欠状況を確認しているときの姿からは想像することができないという失礼ですが、まじめに取り組み、立派に発表している姿をみて、あらためて真面目で素直な学生により支えられている教員であることを思い知らされました。そして、閉会のことばの際のサプライズ演出、対面式をはじめ学科行事を実施することができないなかではありましたが、「“シビル魂”は健在！」も実感することができました。

ぜひ、自信をもってこの先の進路を歩んでください。わからなかったら、わかる人に聞けばよいので。

ありがとう

5年 猪狩 伸斗

私は留年生です。4年時にこのクラスに加入した際、クラスの皆様とは年齢も異なっており、新しい環境のため、うまく出来るか、また卒業できるかとても不安でした。そのため、当初の予定は「苦しんでもいいから卒業をしよう」でした。いざ新学期が始まると、声を積極的にかけてもらって、クラスになじむことができ毎日の学校が楽しかったです。また、課題や定期試験の際に支えあって乗り越えたのもいい経験です。先生方もわかりやすい授業や温かく接していただいてありがたかったです。当初は苦しんでもいいからこの学校を卒業しようと思っていた私は、今では少しでも学生生活を長く送りたいようになっていました。私が卒業できるのはこの学校、先生方、クラスのおかげです。本当にありがとうございました。みなさまの今後の幸せを祈っています。

ビジネスコミュニケーション学科

Business Communication



80点をとろう

5年担任 高木 信太郎

5年間、皆さんの学校生活で重要な位置を占めていたのは、成績評価ではなかったでしょうか。もちろん、それだけしか考えない学校生活は寂しいものですが、60点をとるため、あるいは席次を上げるため、勉強を頑張ってきた人もいました。試験期間になると、皆さんで分からないところを教え合う光景もよく見られました。教えられる人にとっても教える人にとっても勉強になる、とても良い取組だったと思います。

さて、他者から評価される学業成績の他に、自分に対する評価も重要です。皆さんの高専生活は、何点だったでしょうか。今後も、自分の勉強や仕事を、自分で評価し続けていくことは大事です。その時、自分の評価で80点をとれるように頑張ってみてください。誰にでも不得意なことはありますから、100点はとれなくて大丈夫です。不得意なことを得意なことで埋め合わせながら、ほどよい塩梅で頑張ってください。

ありがとう

5年 小西 真優

福島高専での生活は、辛くも楽しい5年間でした。

この5年間で学んだことは勉強だけではありません。対面で授業ができること、文化祭が開催されること、大人数で食事をする、当たり前前の日常がどれだけ幸せで大切なことだったのかを痛いほど知ることができました。行き場の無い怒りや苦しみを堪えたこともありましたが、私のカメラロールにはいつも笑顔のみんながいます。制限が多くても、高専で過ごした日々はかけがえのない宝物です。5年間の尊い青春を、クラスの人々と過ごせて幸せでした。

これから先、進む道はそれぞれ異なりますが、この5年間で学んだこととクラスの人々との思い出を胸に、頑張っていきます。

お世話になった先生方、大好きなクラスの皆さん、そして支えてくれた家族、本当にありがとうございました。

生産・情報システム工学コース



専攻科修了おめでとうございます。

高専生活を振り返って

コース長 植 英 規

福島高専で多くの時間を過ごした皆さんも、ここで（ようやく？）修了ですね。皆さんのこれからの活躍を期待します。

専攻科の大きな特徴のひとつに、本科から環境を変えず継続的に勉強や研究に集中できることがあります。自由になる時間も意外と多く、学校外でも自分が興味を持ったことに十分に打ち込めたという人もいないかもしれません。教員として、これまでの一人ひとりの学生生活が皆さんにとって有意義なものであったことを願います。

一方で、環境が変わらないことは必ずしも良いことばかりではありません。皆さんはこれから、慣れ親しんだ高専生活から離れてそれぞれの道を進んでいきます。新しい環境を恐れず、積極的に色々なことに挑戦してほしいと思います。学校での学びは限られています。ぜひ多くの人と出会い、多くの価値観に触れてください。これからの人生での多くの学びの中で、福島高専とその専攻科での経験が皆さんをきっと助けてくれるでしょう。

2年 福田 陽太

7年間という長い、高専での学生生活が終わりを迎えようとしています。専攻科の授業では、本科に関わることの少なかった他学科の学生とコミュニケーションをとりながらの共同グループワークやプレゼン発表をする機会が多くありました。これらの授業を通して、様々な視点から物事を捉える重要性や話し合いのポイントを学ぶことができました。学校行事では、専攻科2年生時の校内体育大会も思い出の一つとなっています。友人と笑いあいながら全力でスポーツをすることができ、とても楽しいひと時でした。

最後に高専での7年間を振り返ると、学業・部活動の全てにおいて友人や先生方に恵まれ、とても幸せでした。これまで7年間にわたり学業や研究活動のご指導をいただいた先生方や友人に心からの感謝をもって、お礼の言葉とさせていただきます。

エネルギーシステム工学コース



修了生の皆さんへ

コース長 鄭 耀 陽

専攻科修了生の皆さん、修了おめでとうございます。

この祝辞を直接皆さんにかけるとはできず、非常に残念に思います。この場を借りて皆さんの旅立ちを祝います。これからの自分の人生を一步一步着実に歩いていく皆さんにはなむけの言葉を贈らせていただきます。

皆さんは、この福島高専本科そして専攻科の7年間で得た一番大切なものは何か考えたことがありますか。皆さんは専攻科に在籍した2年間は新型コロナウイルスの拡大により社会情勢もずいぶん変わりました。「非常」は「通常」になったこともたくさんありました。学校生活においても大きな影響を受け、何度も出席停止やオンライン授業が余儀なくされました。特に特別研究をはじめとする実験・実習科目への影響は一番大きかったかと思います。その状況でも皆さんは教員と一丸になって知恵を絞り、困難を越えたことは本当に嬉しく思います。

皆さん、この福島高専の7年間で経験したことは善かれ悪かれ、全て皆さんの財産であり宝物です。皆さんのこれからの人生に必ず役立つものと確信しています。

皆さん、福島高専で培った知識や素養を生かして素晴らしい社会人に成長していくことを楽しみにしています。

7年間の感謝

2年 久保 佳透

希望と不安を抱きながら7年前に始まった高専生活も修了を迎え、晴れやかな気持ちと共に寂しさを感じます。振り返れば様々な記憶がよみがえり、7年が長くも短くも思える不思議な感覚です。

高専生活での印象的なことは幾つもありますが、レポート地獄や難解な科目に苦しんだ時期は今でも忘れません。ただ、それを乗り越えた先にはあまりに大きな成長があり、今の私を形成するために欠かせない経験だったと言い切れます。辛い時期もありましたが、思い返す高専生活のほとんどが友人との日常です。15歳から20代までの貴重で濃密な時間を共に送った友人と、その思い出は一生の財産です。

私が卒業を迎えることができたのは、最高の友人たち、手厚くご指導くださった先生方、そして一番近くで支えてくれた家族のおかげです。心から感謝を申し上げます。4月からの新生活でも感謝と真摯の心を持って精進してまいりますので、今後とも暖かく見守ってくださると嬉しいです。

化学・バイオ工学コース



修了おめでとうございます

コース長 柴田 公彦

専攻科修了おめでとうございます。本科5年間、専攻科2年間、合わせて7年間過ごした学び舎から、いよいよ飛び立つときがきました。今、皆さんは新しい人生のスタートへ期待を膨らませつつ、その一方で不安も抱えていることと思います。何事も最初が肝心です。分からないことを何でもすぐ聞くことができるのは新人の特権です。早く新しい生活に慣れて良いスタートダッシュを決めてほしいと願っています。皆さんのこれからの人生は、福島高専の7年間とは比べものにならないほど長く、いろいろな問題や課題、新型コロナのような予期せぬことも待ち受けていることでしょう。しかし、福島高専での7年間の様々な経験や努力が、これからの皆さんの人生において結実し、やがて大輪の花を咲かす日が来ると信じています。最後に、健康にはくれぐれも留意してください。皆さんの活躍を期待しています。

感謝の言葉

2年 松本 優奈

7年間という長いようで短かった高専生活が終了し、達成感を感じています。勉強や部活動、研究活動などすべてが良い経験であり、充実した学校生活を送ることができました。これもすべてクラスメイト、先生方、家族の支えがあったおかげです。心から感謝申し上げます。

専攻科で過ごした2年間は、新型コロナウイルスの影響で思うような活動ができなかったこともありましたが、しかし、そのような中でも他学科の学生と交流したり、学会発表でいろいろな意見を頂いたり、貴重な経験をすることができました。あっという間に過ぎた2年間でしたが、自分自身を成長させることができたと思います。

卒業後は、高専で学んだことを活かし、社会人として真摯に努力していきたいと考えております。7年間の高専生活でお世話になった友人、諸先生方、家族へ改めて感謝を伝えたいです。ありがとうございました。

社会環境システム工学コース



世の中で戦う力を

コース長 菊地 卓郎

社会環境システム工学コースの皆さん、修了おめでとうございます。

高専は世の中で戦っていくための力を付ける学校です。皆さんは本科も含めると、小学校よりも長い時間をこの福島高専で過ごしてきました。その間、どんな武器を手に入れ、その武器に磨きをかけて、操れるようになったのでしょうか。これから世の中に出れば、答えのない問題が次々に目の前に現れて、解決を求められます。この問題解決は教科書通りとはいきません。高専時代に得た大小様々な自分の引き出しの中にある武器を組み合わせ、戦っていきましょう。そして、さらなる経験とスキルを身に付けて、人生100年時代とも言われる世の中で常に自分をバージョンアップさせてください。

大学とはひと味もふた味も違った高専専攻科というバックグラウンドを持った皆さんの活躍が福島高専専攻科の存在意義でもあります。それぞれのフィールドでの活躍を心から願っています。

我らの道はいわきから始まる

2年 佐藤 玄佳

まずは7年間にわたって支えていただいた先生方と友人たちに感謝申し上げます。良くも悪くも今の私があるのは皆さんのおかげです。長い高専生活の中では、授業・実習・研究のほか、デザコンへの参加やニュージーランドへの短期留学などができました。大変なことも同じぐらい多くありましたが、総じて楽しいときを過ごすことができました。今後は、これまでの学びを糧に研究活動に励んでいきたいと思います。

時の流れとともに、人もまちも技術も変わっていきます。私たちの「建設環境工学科」も今では都市システム工学科となりました。土木分野では老朽化や人手不足など新たな課題に直面しています。今後も様々な変化が起きていくことでしょう。また、働くうえで辛いことも多くあることでしょう。それでも土木への情熱だけは変わらずに持ち続けていきたいと思っています。私たちが創る明日のまちにご期待ください。

ビジネスコミュニケーション学コース



専攻科の修了によせて

コース長 湯川 崇

専攻科修了おめでとうございます。本科の5年
間と専攻科の2年間で学んだコミュニケーション
能力は、社会に貢献するための大きな力となるで
しょう。地域社会や国際社会での人間関係の構築
やビジネス交渉など、コミュニケーション力が求
められる場面は数多くあります。また、グローバ
ルな視点を持っていることで、世界的な問題に対
しても的確な解決策を導き出すことができるはず
です。

これからの社会はますます高度化していきま
す。今後も常に新しい知識や技術を学び、自己成
長することが求められます。失敗や挫折があっても、あきらめずに前進し自分自身を高めていくこ
とが大切です。社会に貢献することができる人材
であり続けるために、常に努力を惜しまない姿勢
を忘れないでください。

皆さんが学んだ知識と能力を社会に還元し、地
域社会や国際社会で活躍する姿を期待していま
す。福島高専専攻科の修了生としての自信と誇り
を胸に、これからの人生を輝かせてください。

7年分の感謝

2年 西山 駿

2016年にビジコミの一期生として入学してから
7年が経ちます。高専生活は本当にあっという間
で、かけがえのない時間でした。

学食は2年生以上からというデマを信じ男子全
員で無意味に守った1年生。クラス総出で三崎公
園に行きBBQをした2年生。週4の8限と13教
科の試験を乗り越えた3年生。皆で作上げた渾
身の学科PVが磐陽祭の中止でお蔵入りになった4
年生。多くの学校行事や成人式が無くなった5年
生。そして専攻科進学後は、授業や研究、就活に
バイトと大忙しの日々でしたが周囲の支えもあり
夢を叶えることができました。

楽しい思い出と歯痒い思い出をした出来事が入り
混じった7年間でしたが、どのような状況下でも
いつもそばには最高の友人や先輩後輩、頼りにな
る先生方がいました。支えてくれた皆さんへの感
謝を忘れず、未来で待つ笑顔のため崇高な志と活
い視野を持った大人になれるよう頑張っていきたい
と思います。7年間本当にありがとうございました。

令和4年度 卒業生・修了生の進路状況と キャリア教育支援室の取り組み

男女共同参画・キャリア教育支援室 キャリア教育担当責任者 松尾 忠利

令和4年度の本科5年生および専攻科2年生の進路決定状況をP15～P16に示します。本科5年生の進路状況は、就職と進学が半々であった例年と比較すると、今年度は1割ほど進学者が就職者を上回りました。就職希望の学生が若干少ないこともあって、今年度の就職希望者に対する求人率は約30倍となりました。これは新型コロナウイルスの影響で減少した求人数が、例年並みに回復した昨年の26倍よりも良好でした。しかし、大企業への就職に関しては、まだまだ狭き門となっています。また、専攻科2年生では12%の学生が大学院に進学しました。なお年度末には、卒業生・修了生のほぼ全員の進路が決定する見込みです。

キャリア教育支援室として、校内での公務員模擬試験、就職ガイダンス、面接等指導講習会の実施等（オンライン面談についての対策）や学外での「高専生のための仕事・業界研究セミナー」参加する学生の支援を行いました。また、キャリア教育担当として多くの大学や企業の担当者と面談する機会があり、その度に「興味のある学生がいる場合は、是非ご推薦をお願いします。」と言われ、社会からの高専生の評価の高さを改めて認識しました。これは、基礎的・専門的な学

力が高いことに加えて、何事にも真面目に取り組む素直な性格、協調性やコミュニケーション能力の高さ等、仕事を遂行する上での資質の高さが評価されているのだと思います。一方で、福島高専の学生の採用に積極的な地元企業と県外を目指し就職活動を行っている学生との間には、ギャップが感じられることもあります。また、経団連の就職協定廃止に伴い、今後さらに企業による求人活動の開始時期が早まることが予想されるため、学生への就職支援活動の時期や内容を検討する必要があります。さらに、遠隔授業期間のように学生の登校が制限された中でも、求人票の閲覧ができるようにする方法等、有効なキャリア支援の方策を検討する予定です。

COVID-19の多様な変異株のまん延は終息しつつある現状ではありますが、この間変化したオンライン面談等の就職活動の方法は今後も継続されると予想されます。卒業生の活躍によって築かれ、高い評価に起因する現在の良好な進路状況を保つべく、キャリア教育支援室として学生の就職活動がスムーズに進むよう到来年度以降も多方面より支援を継続します。

本 科 生 の 進 路 (令和5年3月卒業)

() は女子学生

区 分	機械システム 工学科	電気電子 システム工学科	化学・バイオ 工学科	都市システム 工学科	ビジネスコミュニ ケーション学科	計
卒 業 者 数	43 (1)	40 (2)	39 (23)	36 (13)	39 (30)	197 (69)
進 学 者 数	24 (0)	18 (2)	26 (14)	17 (4)	23 (16)	108 (36)
就 職 者 数	17 (1)	21 (0)	13 (9)	18 (8)	10 (9)	79 (27)
そ の 他	2 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (1)	6 (5)	10 (6)

専 攻 科 生 の 進 路 (令和5年3月修了)

() は女子学生

区 分	産 業 技 術 シ ス テ ム 工 学 専 攻	ビジネスコミュニケーション学専攻	計
修 了 者 数	22 (5)	2 (0)	24 (5)
進 学 者 数	3 (0)	0 (0)	3 (0)
就 職 者 数	19 (5)	2 (0)	21 (5)
そ の 他	0 (0)	0 (0)	0 (0)

卒業生の進路一覧

機械システム工学科

福島高専専攻科 (4名) 長岡技術科学大学 (9名) 豊橋技術科学大学 (3名)
 福島大学 (2名) 茨城大学 (2名) 東京農工大学 信州大学 福井大学 埼玉工業大学
 アイリスオーヤマ(株) アルプスアルパイン(株) 花王ロジスティクス(株) (株)クレハ (2名)
 日本テクノカーボン(株) (2名) トーテックアメニティ(株) トヨタ自動車東日本(株) (2名)
 日本精工(株) (株)北拓 (株)マクスシスエンジニアリング (株)メンバーズ ユニ・チャームプロダクツ(株)
 いわき市役所 (公財) 埼玉下水道公社

電気電子システム工学科

福島高専専攻科 (4名) 長岡技術科学大学 (4名) 豊橋技術科学大学 山形大学 福島大学
 茨城大学 (2名) 筑波大学 宇都宮大学 千葉大学 東京農工大学 電気通信大学
 NECフィールディング(株) (株)NTTデータ オムロンフィールドエンジニアリング(株)
 (株)クレハ (株)SUBARU 東海旅客鉄道(株) 東京ガスネットワーク(株) 東新工業(株)
 東洋システム(株) (株)トヨタシステムズ パーソルR&D(株) (2名) 東日本電信電話(株)
 (株)ヒロエンジニアリング (株)フジ電科 (株)北拓 (株)マイナビEdge 三菱電機エンジニアリング(株)
 メタウォーター(株) (株)メンバーズ 山崎製パン(株)

化学・バイオ工学科

福島高専専攻科 (4名) 長岡技術科学大学 (5名) 北見工業大学 東北大学 福島大学 (2名)
 茨城大学 筑波大学 (3名) 宇都宮大学 (3名) 千葉大学 東京農工大学 (2名) 島根大学
 東京都立大学 千葉工業大学
 あすか製薬(株) オカモト(株) 花王(株) (株)クリアライズ (株)クレハ 城北化学工業(株)
 第一三共バイオテック(株) 中外製薬工業(株) (3名) ユニチカ(株) ライオン(株)
 (一財) 光科学イノベーションセンター

都市システム工学科

福島高専専攻科（4名） 長岡技術科学大学（2名） 秋田大学 山形大学 茨城大学 群馬大学
千葉大学 横浜国立大学 岐阜大学 福井大学 三重大学 山口大学 東京都立大学
アイリスオーヤマ(株) (株)東コンサルタント NTTインフラネット(株) (株)大林組
(株)郡山測量設計社 五洋建設(株) (株)ザイマックスグループ (株)JX金属 電源開発(株) 東京水道(株)
中野建設コンサルタント(株) 日栄地質測量設計(株) (株)東日本建設コンサルタント
東日本高速道路(株) フタバコンサルタント(株) 復興支援測量業務互助会 いわき市役所
富岡町役場

ビジネスコミュニケーション学科

福島高専専攻科（4名） 岩手大学 山形大学 福島大学（2名）新潟大学 筑波大学 静岡大学
三重大学 滋賀大学 神戸大学 広島大学（2名）九州大学 駒沢大学（2名） 東海大学
創価大学 鎌倉女子大学 東京国際工科専門職大学
アルプスアルパイン(株) ウェルシア薬局(株) (株)NTT東日本一南関東 エリクソン・ジャパン(株)
キヤノンアネルバ(株)（2名） (株)ハニーズホールディングス ひまわり信用金庫
ミネルバ税理士法人 いわき市役所

卒業生（その他）の進路一覧

機械システム工学科 2名

進学希望…研究生（2名）

電気電子システム工学科 1名

専門学校…仙台デザイン&テクノロジー専門学校

都市システム工学科 1（1）名

専門学校…日本電子専門学校

ビジネスコミュニケーション学科 6名

専門学校…東京ビジュアルアーツ

次年度再受験（2名）（研究生以外）

海外…オスロ大学

進学希望…研究生 就職希望…企業調査中

修了生の進路一覧

産業技術システム工学専攻

茨城大学大学院 筑波大学大学院 京都工芸繊維大学大学院 NOK(株)
キヤノンメディカルシステムズ(株) (株)近代設計 JX金属(株)（2名）
JR東日本コンサルタンツ(株) 城北化学工業(株) 大日精化工業(株) (株)TBSアクト
東京ガスネットワーク(株)（2名） (株)ネクスコ・エンジニアリング東北 東日本旅客鉄道(株)
三菱電機エンジニアリング(株)
国土交通省東北地方整備局 郡山市役所（国研）日本原子力研究開発機構
（一財）光科学イノベーションセンター（公財）東京都都市づくり公社

ビジネスコミュニケーション学専攻

ソニーグローバルソリューションズ(株) (株)宮城テレビ放送



学生会1年間を振り返って

ビジネスコミュニケーション学科 4年

西山 史 栞

昨年度の学生会では、既存の活動形態を一新することと本校における学生会活動を周知することを目標としていました。総会のリモート化による参加者の減少、活動内容を把握している役員が少ないといった様々な問題があり、それを解決するためにもパンデミックが収まりつつあったこの年にと意気込んだ故の目標でした。しかし、目標達成には至りませんでした。まるで二兎追うものは一兎も得ずといったように、改善された部分はあれど、根本的解決に結びつけることが出来ず悔いが残ります。とはいえ、例年通りの計画をこなしつつ、リモートでの部活紹介や季節のイベントなど新たな挑戦をし、見苦しい部分もありましたが多くの方の協力のおかげで成功させることが出来ました。そして、私個人の話で恐縮ですが、精神的に成長することも出来ました。不甲斐ない私を学生会長として見守り支えて下さった方々、大変お世話になりました。ありがとうございました。



ひと月遅れの
クリスマス
イベント



光の祭

令和4年度福島県高等学校新人体育大会

■ソフトテニス競技

男子団体戦		2 回戦敗退
男子個人戦	猪狩 浩葵 (2E)	
	若松 勇汰 (2T)	2 回戦敗退
	大谷 幸詩 (2T)	
	堀田 直希 (2M)	初戦敗退

■卓球競技

男子団体戦		3 回戦敗退
男子シングルス	清野 雅仁 (1M)	2 回戦敗退
男子ダブルス	鈴木 翔太 (2T)	
	清野 雅仁 (1M)	2 回戦敗退
女子シングルス	岡田 紗季 (2T)	棄権

■バドミントン競技

女子団体		初戦敗退
------	--	------

女子ダブルス	小林 莉瑠 (2C)	
	大石 愛陽 (1T)	棄権
男子シングルス	大谷 柊斗 (2T)	2 回戦敗退
女子シングルス	大石 愛陽 (1T)	棄権

■弓道競技

個人競技男子	小葉 司 (2E)	準決勝進出
	高木 遥叶 (2E)	予選敗退
	安龍 治輝 (1B)	予選敗退
個人競技女子	畠山 優香 (2C)	予選敗退
	古内 南那 (2C)	予選敗退

■剣道競技

男子団体戦		3 回戦敗退
女子団体戦		初戦敗退
男子・女子個人		初戦敗退

各種大会等の結果

■バスケットボール部

◎令和4年度東北地区高等専門学校バスケットボール新人大会

男子	福島 26-28 一関	
	福島 27-26 八戸	
	福島 19-39 仙台広瀬	
女子	福島 30-65 仙台名取	
	福島 48-52 八戸	

■水泳部

◎第30回東北高等学校新人水泳競技大会

男子400m個人メドレー決勝	西山 遙人 (1M)	第9位
----------------	------------	-----

■ソフトテニス部

◎第19回福島県高等学校秋季ソフトテニス大会

男子団体戦		初戦敗退
-------	--	------

■硬式野球部

◎第10回秋季東北地区高専公式野球交流戦

福島 2-24 一関	福島 10-23 鶴岡
------------	-------------

■ラグビー部

◎第59回東北地区高等専門学校体育大会

ラグビー競技主管運営業務実施

■将棋部

◎第31回全国高等学校文化連盟将棋新人大会福島県大会

吉田 詩桜 (1M)	3 回戦敗退
大塚 章最 (2C)	敢闘賞

■吹奏楽部

◎第42回定期演奏会

開催

■演劇部

◎第65回いわき地区高等学校演劇コンクール

優秀賞第3席

■ガバディ愛好会

◎2023年ガバディ日本代表強化指定選手

関根 彩夏 (4E)	選出
------------	----

■ロボット技術研究会

◎第7回廃炉創造ロボコン

廃炉研究会「Disconnect」

塚田愛由希 (3M)	
佐久間広太 (3E)	
斎野 朝日 (4E)	特別賞 (榊アスム賞)

連合会主催のコンテスト等出場結果

■都市デザイン研究会

◎第19回全国高等専門学校

デザインコンペティション2022 in 有明

構造デザイン部門

豊増 汰一 (4T)	
門脇 真音 (3T)	
松本 柁音 (3T)	
宗像 彩乃 (3T)	
大津留優空 (1T)	第52位

■ロボット技術研究会

◎アイデア対決・全国高等専門学校

ロボットコンテスト2022東北地区大会

製作・調整協力：ロボット技術研究会学生

・Aチーム「紙頼み」

斎野 朝日 (4E)	
小林 一慶 (3E)	準優勝
久保田磨雄 (2C)	全国大会出場

・Bチーム「数グラムのロマン飛行」

上遠野啓太 (3E)	
小林 巧実 (3C)	
渡邊 巧望 (3M)	予選リーグ敗退
技術賞・特別賞 (牧野フライス製作所) 受賞	

◎アイデア対決・全国高等専門学校

ロボットコンテスト2022全国大会

製作・調整協力：ロボット技術研究会学生

・代表チーム「紙頼み」

斎野 朝日 (4E)	
小林 一慶 (3E)	準々決勝敗退
久保田磨雄 (2C)	ベスト8

■ESS&ESD研究会

◎第16回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト

東北地区大会

発表タイトル「Dobojo」シングル部門 第1位

◎第16回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテスト

発表タイトル「Dobojo」シングル部門 第1位

表彰

●専攻科学業優秀賞

産業技術システム工学専攻

機械工学分野

生産・情報システム工学コース2年 福田 陽太

電気電子工学分野

エネルギーシステム工学コース2年 橋本まゆり

応用化学分野

化学・バイオ工学コース2年 富樫 侑生

土木工学分野

社会環境システム工学コース2年 佐藤 玄佳

ビジネスコミュニケーション学専攻

経営工学分野

ビジネスコミュニケーション学コース2年

西山 駿

●特別表彰

TOEIC成績900点以上取得者

ビジネスコミュニケーション学科3年 鈴木ひかり

上記に匹敵する全国レベルの各賞受賞など

【第16回全国高専英語プレゼンテーションコンテスト

シングル部門で1位入賞】

都市システム工学科3年 佐川さくら

【国際的な学術専門誌に査読付き論文が掲載（採択）】

産業技術システム工学専攻

化学・バイオ工学コース1年

宗像 海帆

【ステージゼロ eスポーツ ハイスchool チャンピオンシップ 2022 VALORANT部門 全国大会 準優勝】

機械システム工学科3年

小野 慶吾

菅原 丈

鈴木 周真

飛田 光海

脇田 結海

●学会表彰

社団法人日本機械学会 畠山賞

機械システム工学科5年

遠藤 謙介

電子情報通信学会東北支部優秀学生賞

電気電子システム工学科5年

稲川 恭也

電気学会東北支部優秀学生賞

電気電子システム工学科5年

稲川 竜也

日本化学会 東北支部長賞

化学・バイオ工学科5年

瀬和 直哉

全国高専土木工学会 近藤賞

都市システム工学科5年

泉澤ことね

●福島高専協力会長賞

機械システム工学科5年

安藤 正人

石川 舜

電気電子システム工学科5年

大沼 源

松本 蒼矢

化学・バイオ工学科5年

川村 晃大

佐々木心優

都市システム工学科5年

遠藤 潤

菊田 勇気

ビジネスコミュニケーション学科5年

猪狩 信人

岡部 圭佑

●福島高専同窓会長賞

機械システム工学科5年

石井 拓翔

機械システム工学科5年

小出 光

ビジネスコミュニケーション学科5年

岩崎由芽花



令和4年度 小論文コンクール

福島高専では、2年次に小論文コンクールを実施しています。本年度は、「エンジニア／ビジネス・スペシャリストに必要な教養とは何か？」というテーマのもと、事前に小論文の書き方を学び、1人最低1冊新書を読んで適切に引用することを求めました。今後自分の考えを自分の言葉で表現することを求められる機会が多くなると思いますが、以下の2点に気をつけてほしいと思います。まず、書く前にしっかりと構成を練ることです。そして、調べたことを書くだけでなく、そこからどのような考えに至ったのか、あるいはそれがどのような方向へと開かれるのかを示すことです。今後も、さまざまな意見に触れ、自分の考えをもち、それを表現する努力を継続してください。

小論文コンクール 表彰者

- ◆最優秀賞 ビジネスコミュニケーション学科 2年 丹野 美晴
- ◆優秀賞 機械システム工学科 2年 飯尾 暖 / 化学・バイオ工学科 2年 大塚 章最
- ◆奨励賞 電気電子システム工学科 2年 渡部 哲士 / 都市システム工学科 2年 鈴木 勇作

最優秀賞

課題 ビジネス・スペシャリストに必要な教養とは何か？

ビジネスコミュニケーション学科 2年 丹野 美晴

近年DX化が話題となっている。しかし世界的に見ると、日本のDX化がいかに遅れているかが一目瞭然である。これはデジタル技術を駆使するビジネスにおいても深刻な問題だ。よってビジネススペシャリストに必要な教養の一つに、デザイン思考の定着があると考ええる。

まずデザイン思考についてだ。世界的有名企業IDEOのCEOであるティム氏は、「人々が自分でさえ気付いていない内なるニーズを明らかにする手助け」^{注1}のための思考法であると述べている。このように、同じくデジタル技術によって、消費者の「より細分化されたニーズ」や「多様な行動」^{注2}を満たすことを求められるDXの推進にも深く関与しているのだ。また、デザイン思考は、洞察・観察・共感の三つで構成されている。この一つである洞察の例として、ティム氏の会社での調査がある。ここでは、「主力商品の本来のターゲットではない」^{注3}人にキッチン用品のデザインについての調査をおこなったそうだ。すると、手が小さく力が弱い子供が感じる道具の使いにくさに関する問題が浮き彫りになるなど、ターゲットでない層だからこそわかる、価値ある洞察がもたらされたという。このように、別の視点から観察しユーザー目線でその問題に共感することで「顧客をより深く理解できれば、より効果的にニーズを満たすことができる」^{注4}と言う。くわえて重要視されている、デザイン思考家同士の話し合いを行うことも、今以上の創造的なアイデアがもたらされ、ビジネスに無限の可能性を感じることができると思う。ここからデザイン思考は、ビジネスにおいて長期的かつ持続可能な成長源であると考えられる。

以上のことから、私はビジネススペシャリストに必要な教養の一つにデザイン思考があると考ええる。また現在、顧客は物やサービスよりも体験を求めている。よって将来的には、デザイン思考を利用した、参加型の新しいビジネス形態が確立できるのではないだろうか。

注1 ティム・ブラウン（千葉敏生訳）

『イノベーションを導く新しい考え方 デザイン思考が世界を変える』（早川書房2010年 四月）56頁

注2 PAYCIERGE全般運営

『DX（デジタルトランスフォーメーション）とは？多様化する消費者ニーズと成功事例を紹介』
(<https://service.paycierge.com/column/dx/> 最終閲覧日 2022年9月16日)

注3 同注1 61頁

注4 同注1 224頁

若葉寮新営披露式を挙行

9月23日（金・祝）、若葉寮の新営披露式と施設見学会を開催しました。

若葉寮は、国際寮でも採用したシェアハウス型の寮として整備され、留学生の様々な文化に対応できるよう、補食スペースにハラル対応が可能なキッチンを整備する等、国際交流の場、学生同士が互いに学習する場の機能も備えた先進的な施設となっています。

披露式では、本校の山下校長より「福島高専では、キャンパスの老朽化を踏まえ、持続可能な発展を可能とするキャンパス再生に向けた取組を進めており、要請に応じていただいた文科省及び機構本部の方々に感謝を申し上げたい。」と挨拶がありました。

続いて、文科省文教施設企画・防災部 齋藤計画課長、国立高専機構 谷口理事長、山下校長、飛田福島高専後援会長、女子寮生代表 入倉美夢さん（化学・バイオ工学科4年）らによるテープカットが行われました。

その後、寮内の見学会が実施され、若葉寮の特長であるオープンスペースとなっている補食スペースや交流スペースのほか、新しくなった居住スペースを見学しました。



テープカットの様子



若葉寮外観

「2022全国鳴砂サミット in いわき」で本校学生が発表

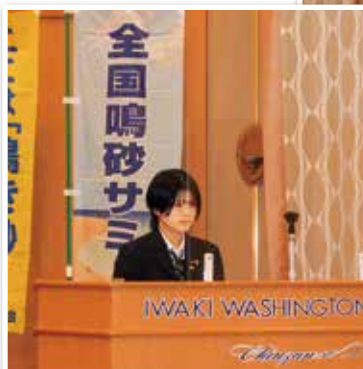
11月12日（土）・13日（日）に「全国鳴砂サミット」が福島県いわき市を会場として開催されました。

本校からは、昨年度と今年度の「ミニ研究」で鳴き砂に関するテーマ（指導教員：電気電子システム工学科・山田貴浩准教授）に取り組んでいる学生4名が参加し、1日目には豊間海岸での鳴き砂実地調査や薄磯地区の「いわき震災伝承みらい館」の見学を行い、2日目にはいわきワシントンホテル椿山荘にて行われたサミットに出席しました。

サミットの会議では各団体の事例報告が行われ、その中で都市システム工学科3年の荻野芙蓉さんが、市内11海岸での現地調査の状況や、現地から採取した砂の粒度分布や汚れの評価、砂を鳴らした時の音の周波数特性の調査結果などについて報告をしました。最後に行われた「サミット宣言」では、荻野さんのほか電気電子システム工学科2年の中島洋太さん、化学・バイオ工学科2年の古内南那さんと吉田知佳さんが宣言文を読み上げました。



豊間海岸での実施調査の様子



サミット宣言文を読み上げる学生たち

事例報告をする荻野さん

東北・北海道地区高専産学連携シンポジウムで最優秀賞、特別賞を受賞

11月25日（金）・26日（土）に、東北大学片平キャンパス さくらホールにて開催された、令和4年度東北・北海道地区高等専門学校専攻科産学連携シンポジウムにおいて、本校専攻科 産業技術システム工学専攻 化学・バイオ工学コース2年 富樫侑生さんの研究発表「マナマコにおける生殖腺成熟とD-アスパラギン酸の関係」が最優秀賞を、同専攻 社会環境システム工学コース1年 高橋知輝さんの研究発表「紙ごみのルーメン処理に及ぼす投入負荷の影響」が特別賞をそれぞれ受賞しました。

このシンポジウムは、東北・北海道地区の専攻科学生を対象に研究やインターンシップの成果を発表する場として開催されるものです。今年度は3年ぶりに対面でも行われ、ハイブリッド形式での開催となり、同地区の高専から229件の発表がオール形式またはポスター形式で実施されました。

今回のシンポジウムでは、最優秀賞1件と優秀賞3件、特別賞2件の表彰があり、本校から上記2件の発表が受賞しました。



受賞した学生と山下校長、指導教員
（左から、丹野指導教員、高橋さん、
山下校長、富樫さん、柴田指導教員）

高専ロボコン2022全国大会でベスト8

11月27日（日）、第35回 アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2022全国大会が両国国技館において開催され、本校出場チームがベスト8に入りました。

今年の競技課題は「ミラクル☆フライ～空へ舞いあがれ！～」で、ロボットが紙飛行機を飛ばし、9個のオブジェクトに乗せるというものでした。

本校からは、東北地区大会で推薦を受けた以下のチームが参加しました。

プロジェクト名：紙頼み

チームメンバー

選 手：斎野 朝日（電気電子システム工学科4年）
小林 一慶（電気電子システム工学科3年）
久保田磨雄（化学・バイオ工学科2年）
ピットクルー：仲井 洸貴（機械システム工学科4年）
田子 怜吾（機械システム工学科2年）
本郷凌太郎（機械システム工学科2年）
斎藤 臣（機械システム工学科1年）
佐藤 陸（電気電子システム工学科1年）

本校出場チームが製作したロボットは、東北地区大会で2台だった紙飛行機の射出機構を6台に増強し、より多くの紙飛行機を飛ばすことができるように改良しました。

全国大会では、1回戦で有明高専に6対1、2回戦で富山高専に3対1で勝利し、準々決勝まで進みました。準々決勝では大分高専にVゴール（9つのオブジェクトすべてに飛行機に乗せる）を決められ敗退しましたが、昨年度は完成させることができなかったロボットを今年度は完成させ、全国大会でも活躍することができました。



福島高専チーム



競技前のロボット調整



競技フィールドに向かう様子

「SDGs Webinar 2022シリコンバレーと考える新時代」を開催

長岡技術科学大学・豊橋技術科学大学との共催により、「SDGs Webinar 2022」を開催しました。

このSDGs Webinarでは、福島高専生及び技科大生を対象に、「アントレプレナーシップ（起業家精神）」を育成するとともに、グローバルリーダーに必要な発想力や集団内でのコミュニケーション能力の向上を目指しました。

講師には、シリコンバレーで起業または勤務している日本人講師3名と長岡・豊橋両技科大の教員をお招きしました。ワークショップでは、日本と世界におけるSDGsの現状などに関する講義の後、

アイデアのを見つけ方・ブラッシュアップの仕方・マーケティングの方法や、エンジニアとしての挑戦などについて語られました。豊橋技科大大学院在籍中に起業した大学院生からは、プレゼンテーションに関するノウハウやグループ作業に関してチームごとにアドバイスを受けていました。

2020年からスタートした本校主催のSDGs Webinarは3年目となりました。来年度は、より一層充実した内容にすべく、オンラインと対面を組み合わせたハイブリット方式による開催を検討中です。



ワークショップの様子

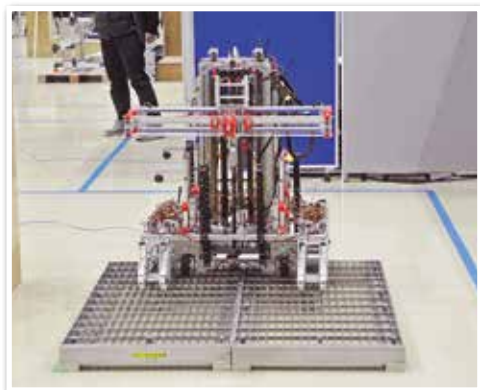
第7回廃炉創造ロボコンを開催

12月10日（土）、「第7回廃炉創造ロボコン」が日本原子力研究開発機構樫葉遠隔技術開発センターを会場に実施されました。

今大会では書類選考によって選ばれた全国の国公立高専12校14チームが参加し、原子炉建屋内における高線量エリアの遠隔高所除染を想定した競技が実施されました。移動経路に高さ100mm程度のグレーチングが設置されるなど前回大会より困難な競技課題となっており、多くの高専が苦戦する中、完成度の高さが評価された小山高専が最優秀賞の文部科学大臣賞に輝き、新井知彦文部科学省研究開発局原子力課長から賞状と副賞のトロフィーが授与されました。

【受賞校】

- 文部科学大臣賞（最優秀賞）：小山高専（小山高専廃炉ロボット製作チーム2022）
- 福島県知事賞（優秀賞）：舞鶴高専（舞鶴高専廃炉研究会）
- 日本原子力研究開発機構理事長賞（技術賞）：大阪公立大高専（Fukaken）
- 国立高専機構理事長賞（アイディア賞）：鶴岡高専（鶴岡高専Eチーム）
- 福島イノベーション・コースト構想推進機構理事長賞（イノベーション賞）：
熊本高専（熊本高専熊本キャンパスロボコン部）
- 特別賞（(株)アトックス賞）：仙台高専（DBK（Disinfection By Kengo））
- 特別賞（日立GEニュークリア・エナジー（株）賞）：旭川高専（人田製作所）
- 特別賞（(株)東京エネシス賞）：一関高専（機械技術部）
- 特別賞（(株)アスム賞）：福島高専（廃炉研究会）



競技の様子



参加学生による集合写真

輝くりケジョを育てるプログラム～ひとつ、ひとつ、実現するふくしま～ 「研究、技術、技能を職業とする女性との交流会」を開催

12月17日（土）に県内の女子中学生・高校生を対象とした「研究、技術、技能を職業とする女性との交流会」を本校において開催しました。

本校は今年度、JST公募事業「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」に採択され、女子中高生とその保護者・教員が理工系分野への理解を深め、理系進路選択を考えるきっかけになるような様々な体験プログラムを実施しています。初めて開催した本交流会には県内各地から女子中学生14名、保護者10名に参加いただきました。

初めに、研究職、技術職、技能職を職業とする3名の講師より、仕事内容の紹介と、現在の職業に就くようになった経緯等についてお話がありました。次に、参加者は3グループに分かれ、それぞれ進路の相談や理系の職業へ就職することの不安などを講師に相談し、講師から体験談を基にしたアドバイスももらっていました。

終了後に行ったアンケートには、「講師の方と直接お話しできる時間があり、理系について理解を深められた。」「実際に現場で働く人の話を聞くことができ、将来について考える良い時間となった。」などの感想をいただきました。



講師による職業紹介



講師と参加者との懇談

高校生ビジネスプラン・グランプリでベスト100に選出

日本政策金融公庫主催「高校生ビジネスプラン・グランプリ」で本校ビジネスコミュニケーション学科2年の大山凛々さんと吉田叶和子さんが考案したプランが4996件の応募の中から「ベスト100」に選出され、12月20日（火）に表彰されました。

2人は「大吉」というチーム名で“家事分担アプリ「かじたん」～「お手伝い」では終わらない！”というプランを応募しました。これは「続けられる楽しさ」

をモットーに家庭内における家事労働の偏りを解消して、家族全員の家事参画を促すコミュニケーションアプリ「かじたん」の開発と運営方法をまとめたものです。

表彰状は、日本政策金融公庫いわき支店長の薬田世志也様から授与されました。受賞後2人は「ベスト100を目指して頑張ったのでとてもうれしい。来年も応募してベスト10に入り、東京大学で実施される最終審査会で発表することを目指したい。そして来年度は「ビジネスプラン研究会」を立ち上げて5学科の知恵を結集したプランを作りたい。」と抱負を新たにしていました。



受賞した学生（左から吉田さん、大山さん）と
日本政策金融公庫 薬田いわき支店長

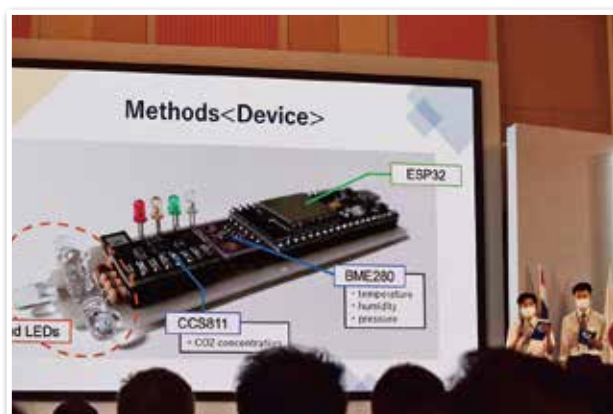
タイ・日本学生ICTフェア（TJ-SIF2022）で本校学生が発表

12月21日（水）～12月23日（金）に、タイ王国チェンライのチュラボン王女サイエンスハイスクールチェンライ校で開催されたタイ・日本学生ICTフェア2022（TJ-SIF2022）に本校電気電子システム工学科3年の阿部港さんと齊藤汐音さんが参加し、オープニングセレモニーにおいてタイ首相の前で英語による発表を行いました。

今回のTJ-SIFでは、日本からスーパーサイエンスハイスクール指定校や高専併せて28校の参加、33件の発表がありました。その中で、本校から参加した2名は日本の代表として、オープニングセレモニーで発表しました。

今回発表した「Air Environment Observation and Control System」は、2人が2年生までに学んだ専門知識を活かして、学科の教職員のサポートのもと開発を進めたIoTデバイスです。同デバイスは、マイクロコンピュータにより各種センサから環境データを収集し、インターネット上クラウドサービスと連携してデータの蓄積とグラフ化が行えます。これによって、どこにいても環境の変化の推移を確認することができます。他にも、赤外線コントローラの機能を搭載しており、エアコンや扇風機などの機器を環境の変化に応じて自動制御する機能、インターネットブラウザから手動制御できる機能を備えています。

今回のTJ-SIFに参加し、同年代のタイの学生達の発表や自身の発表などとおして、電気電子システム工学科で身に着けた技術力が日本だけでなく世界にも通じると実感できる良い経験となりました。



タイ王国首相に向けたプレゼン



発表者はタイ王国首相から表彰がありました



開発したICT機器



山下校長に受賞の報告

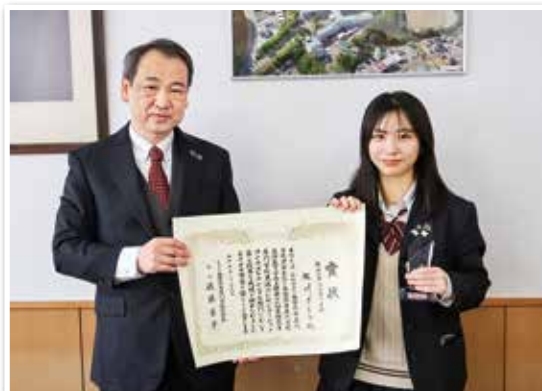
左から山下校長、齊藤さん、阿部さん、豊島教員、谷地館技術職員

全国高専英語プレコンで優勝

1月28日（土）～29日（日）に、一橋大学一橋講堂で開催された第16回全国高等専門学校英語プレゼンテーションコンテストのシングル部門において、本校都市システム工学科3年の佐川さくらさんが優勝しました。

全国大会シングル部門では、各地区大会で上位2名に入賞した高専生が参加し、総勢16名が発表しました。他高専の優れた発表が続く中、東北地区大会で優勝した佐川さんは、全国大会においても優勝を果たしました。

佐川さんの発表タイトルは「Dobojo」で、土木業界の現状と自分の夢について発表し、英語で流暢に自分の思いを熱く語り、聞き手を惹きつけていました。



山下校長（左）に優勝の報告をする佐川さん（右）

デジタル技術検定試験で優秀賞及び団体優秀賞を受賞

公益財団法人国際文化カレッジ主催のデジタル技術検定試験（文部科学省後援検定）において、令和4年度の成績優秀合格者に贈られる個人賞各賞を本校の学生7名が受賞しました。また、団体として多くの学生が優秀な成績を収めたことが評価され、本校が「団体優秀賞」を受賞しました。団体賞については、一昨年の団体優秀賞、昨年の文部科学大臣賞に続いて3年連続の受賞となりました。

同試験は、情報処理・制御に関する技能や知識をデジタル技術という観点から評価する検定試験です。今年度は、本校の電気電子システム工学科3年生から5年生までの学生40名が受験し、35名の学生が合格しました。また、3級を受験した学生は全員合格し、難易度の高い1級情報に合格した学生もいました。

【受賞一覧】

個人賞

- 優秀賞 電気電子システム工学科4年 村松 蒼大（2級制御）
電気電子システム工学科3年 荻津 桜子（3級）
- 優良賞 電気電子システム工学科3年 柳沼 孝太（3級）
電気電子システム工学科3年 大竹 蒼空（3級）
電気電子システム工学科3年 上遠野啓太（3級）
電気電子システム工学科3年 吉田 千里（3級）
電気電子システム工学科3年 齊藤 汐音（3級）

団体賞

- 団体優秀賞



山下校長（前列中央）に受賞の報告をする学生と橋本指導教員（後列右）

二級建築士試験の受験資格取得に関する指定科目の認定について

福島高専都市システム工学科では、令和5年度から土木建設関連の授業に加え、建築関連の授業を取り入れた変更を行い、都道府県指定試験機関である（公財）建築技術教育普及センターへカリキュラムの変更と建築士受験資格取得の申請を行っていましたが、この度、本校のカリキュラムが建築士試験の受験資格要件に合致するものとして認可されました。

これにより令和5年度入学生からは、必要な科目を履修することで卒業時に二級建築士の受験資格を得ることができます。

二級建築士試験に合格すると1年間の実務経験を経た後に二級建築士資格が都道府県知事から交付され、戸建て住宅等の建築物について、設計・工事監理を行うことができます。都市システム工学科では今後、土木系と建築系の両方で進路を選択することが可能となります。

情報処理学会全国大会で本校学生が学生奨励賞を受賞

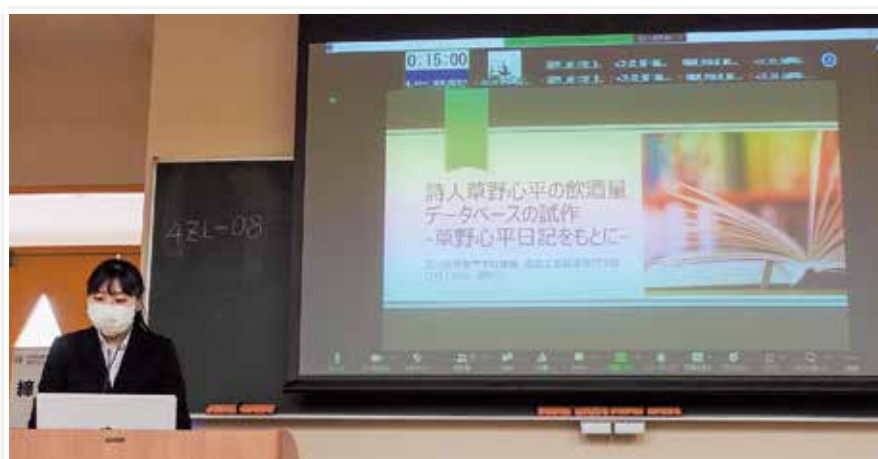
3月2日（木）～4日（土）にかけて、電気通信大学で開催された情報処理学会 第85回全国大会 ～ダイバーシティと情報処理～ において、本校ビジネスコミュニケーション学科4年の村上紗彩さんが、草野心平の飲酒習慣についての発表を行い、学生奨励賞を受賞しました。

この研究は、いわき市立草野心平記念文学館と連携して、草野心平が残した日記を元に出版された「草野心平日記」から、日々の飲酒に関する記述をデータ化し、データベースを構築して、分析したものです。対象とした1976年の8か月間(240日)に一日平均66gの純アルコールを摂取しており、日本酒だと3合、ビール大瓶だと2.5本、ウイスキー水割りだと6杯に相当することを明らかにしました。

今後は、分析データの拡大とオンライン化、さらに畑仕事や散歩などの運動との関係を調査する予定です。



山下校長（右）に受賞の報告をする村上さん（左）



発表する村上さん

福島高专創立60周年記念式典を挙行

11月3日（木・祝）、創立60周年記念式典を来賓・学生・教職員など約1300人が出席し、いわき芸術文化交流館アリオスにおいて挙行了しました。

式典では、山下校長が「60周年を迎えられたのは、卒業生、教職員、後援会、産業界や地域の皆様のお陰であり、御礼申し上げる。還暦を迎え、地域人材育成の充実、若者の福島離れの脱却を目指し、地域の経済が以前より活気のあるものになるよう精進を重ねていきたい」と式辞を述べ、続いて文部科学省 池田高等教育局長、国立高等専門学校機構 谷口理事長、福島県知事（吾妻いわき地方振興局長代読）、内田いわき市長、長岡技術科学大学 鎌土学長、豊橋技術科学大学 寺嶋学長から祝辞が述べられました。

式典後は、トヨタ自動車株式会社 Mid-Size Vehicle Company MS製品企画副部長 田中義和氏による「水素エネルギー社会実現に向けたチャレンジ」と題した講演会を実施し、次代を担う学生たちへ熱いエールが送られました。

続いての祝賀会は会場をいわきワシントンホテル椿山荘に移して、来賓・教職員・OBなど150名を越える出席のもと盛大に開催されました。



記念式典での校長式辞



記念式典の様子



記念式典の様子



田中氏による記念講演



祝賀会での鏡開き



祝賀会でのアトラクション

「魅力あるキャンパスづくり」アイデア表彰式を実施

福島K0SEN60周年記念事業「イノベーションコモンズ」における「魅力あるキャンパスづくり」アイデア表彰式を実施しました。

本校では、創立60周年記念事業 福島K0SENコモンズの「イノベーションコモンズ」として、正面玄関から工学池周辺のリニューアルを実施しますが、そのデザインを「魅力あるキャンパスづくり」アイデアとして、学生の皆さんから募集しました。本表彰式では、提出されたアイデアの中から、最優秀賞及び優秀賞を表彰しました。



最優秀賞を受賞した学生のみなさん



優秀賞を受賞した学生のみなさん

福島高専創立60周年記念植樹式を実施

福島高専創立60周年記念式典と併せて、記念植樹式を本校工学池西側（中庭）で実施しました。

今回植樹したのはハナミズキで、花言葉は「永続性」。本校が末永く発展していくようにという願いが込められています。

植樹式では、山下校長及び八木衆議院議員から、本校の末永い発展を祈り、挨拶が述べられました。その後、山下校長、八木衆議院議員、文部科学省池田高等教育局長の3名による鋤入れが行われ、ハナミズキを記念植樹しました。



記念植樹の様子

寄附について

福島高専創立60周年記念事業における寄附及び協賛の募集を昨年3月に開始しました。令和5年3月時点で、協力会会員企業及び本校OB等からの寄附を中心に、目標金額を大きく上回る14,637,271円のご寄附を賜りました。

趣旨にご賛同いただきましたことに、心より感謝申し上げます。

募金は令和5年6月30日まで継続してまいりますので、引き続き、皆さまのお力添えをいただければ幸いです。

寄附については
こちらから▶



「2022年度カーボンニュートラル 社会連携講座」を開催しました

今年度、本校と東洋システム株式会社とで共同申請した「カーボンニュートラル社会連携講座」が、経済産業省事業の「高等教育機関における共同講座創造支援事業費補助金」に採択され、令和4年10月から令和5年2月にかけて関連講座を実施しました。この講座は、本校専攻科生と地元企業従業員を対象とする全11回の座学を主なものとし、加えて誰でも参加できるWeb公開セミナーを4回、さらには総括として本校学生、地元企業従業員、一般市民を対象とした「公開シンポジウム」を開催いたしました。

座学およびWeb公開セミナーでは、カーボンニュートラルに関し第一線で活躍する講師陣を全国からお招きし、次世代発電である太陽光・水素・蓄電池等の話題から、国・地域の政策、さらにはビジネスに関するものまで、多岐に渡るテーマで授業を実施しました。令和5年2月25日(土)の公開シンポジウムでは基調講演として、気候変動をテーマに数多くのドキュメンタリーを制作しているNHKエンタープライズエグゼクティブプロデューサーの堅達（けんだつ）京子氏による「カーボンニュートラルの実現に向けて」と題する講演をいただくと共に、「エネルギーをとりまく『変化』と課題」をテーマにパネルディスカッションを行いました。パネルディスカッションでは本校の山下校長が、福島高専のSDGsに関する取組を披露すると共に、地元企業と共にカーボンニュートラルへの取組を継続的に実施していく決意を述べました。

本講座は次年度も継続して実施する予定で、申請に向けて現在進行中です。本校ではこの講座をきっかけに、カーボンニュートラルに関する人材育成、共同研究・開発を推進し、新産業創設やカーボンニュートラル社会の実現に結びつくように尽力していきます。





磐陽祭2022を開催

11月5日（土）、4年ぶりに一般の来場者を迎えて本校の学園祭「磐陽祭2022」を開催しました。

この磐陽祭は、令和元年は台風19号の影響で中止となり、令和2年は新型コロナウイルスの感染拡大のためオンライン開催に、令和3年は前年度に引き続きオンライン開催で、ショートムービーコンテストと校内イルミネーション装飾のみを公開しました。今年もコロナ禍が続く状況のため、飲食物を提供する模擬店の出展を控え、一般の来場者については事前登録制とするなど、新型コロナウイルスの感染対策をして開催しました。

今年の磐陽祭のテーマは「Our New Normal ～今しかできないこと～」でした。世界情勢が急速に変化し、「今できること」が将来できるかわからない状況の中で、そのような状況を否定的に捉えるのではなく前向きに捉え、「今しかできないこと、今だからこそできることをやろう」という思いが込められました。

このテーマのもと、実行委員会が中心となり各学科や部活動・学生団体は、来場者が楽しむことができる様々な催し物を企画しました。模擬店が出展できなかったため、出展の内容をこれまで以上に工夫することで魅力あふれる催し物が出展されました。

学生たちは、数多くの制約がある中でも、知恵を出し合い、試行錯誤し協力しながら一つの大きな行事を終えることができました。この経験から学んだことは、今後の学校生活に活かされるものと思います。



磐陽祭の様子（第一体育館）



学科による企画

退職者挨拶



校長 山下 治

文部科学省を辞して5年、郡山市出身で高専卒業という御縁で着任した福島高専。あっという間の5年でしたが、その間には様々なことがありました。

着任した当時、まずは、1年、前校長のスローガンの仕上げでもしながら、次の5年の中期計画に向けた方針を建てようということで臨みました。前校長が推進したグローバル化の仕上げを今は亡き加藤先生とのタッグで6thRCCSという本校初の国際会議の主催、そして全高専を代表してJSTS/ISTSを実施し仕上げた後、次のスローガンを「持続可能な社会発展に向け、グローバルに活躍する次世代技

術者を育成する」と定め、福島高専の持続可能な発展を可能とする基盤の強化に努めると共に、最後は、その先の目標を作るということを目指そうと思いました。

まずは、経営基盤の強化です。日常の課題解決や本校独自の取組を進めるためには、財源の確保が必要でした。本校は光熱水量費や非常勤講師の経費が異常に高く、学内の財政は危機的な状況でした。まずは省エネということで、水の循環装置を入れたり、インフラの更新をしたり、水泳部への支援と併行して水漏れしていたプールを廃止、水の使用量を40%カットする等の経費削減や、非常勤講師雇用の適正化に取り組み、財政を健全化しました。

次に教育です。本校の教員は熱心な指導を行っていましたが、学生に多くの時間を割いていました。授業時間終了が17時近くまで、部活が19時過ぎまで続くなど、学生に自由時間はあまりないのが驚きでした。学生の自主性を育てるため、かつ働き方改革により授業時間のスリム化と下校時間の前倒しを行うこととしました。コロナ禍もあり、15時前には多くの学生が下校可能となり部活も18時には終了できるようになりました。最近では、自主的な活動により学生も、部活以外で日本トップレベルの活躍ができるようになりました。

三番目が研究です。着任当時本校の科研費獲得額は高専全体のボトム3に入っていました。この改善は急務と考え、本部理事を招集して啓発から入り、研究推進WGを設置、研究支援や申請書のレビューをはじめ3年目には上位三分の一に食い込めました。

そして、地域貢献。本校は、外部資金獲得額は、着任以前からトップ3におり、この強みをいかに維持するかが、課題でした。着任後、2年で廃炉人材育成事業は文科省の補助金が終了しましたが、これは本校の使命と思い何とか自力で維持。一方、原子力規制や環境回復、福島復興のプロジェクトなど皆さんが獲得してくれたおかげで、さらなる発展を遂げることができています。

学生支援については、着任当時から学生主事とタッグでSSWを核にチーム福島高専を立ち上げ、今は病院の参画など他の高専が羨むほど充実したチームができています。

ただ、国際交流に関しては、コロナの影響が大きく、活動を縮小せざるを得ませんでしたが、コロナ後に向け、本校独自の活動であるRCCSとの活動維持、シリコンバレーと組んだWEBINARの進化に向け活動を継続し、この三月にはRCCSの参画で私も基調講演を務め、国際活動も本格的に再開することができました。

キャンパスの整備も、図書館の充実、インフラの更新、国際寮及び女子寮の整備と毎年充実できました。以上、本校の、持続可能な発展に向けた取り組みは完成とは言えないまでも、全分野にわたりその基盤は強化されたものと自負しています。

少し心配なのが入学者確保です。私の在任中に、広域的に自治体との連携を進めるなど効果的な説明会ができるよう準備を進めると共に、昨年定員割れした都市の授業に建築科目を導入し二級建築士受験の道を開き、入試倍率の増加につなげました。しかし、少子化を考えると説明会の充実や寮の充実など絶え間のない努力が必要です。教職員一丸となって優秀な学生確保に取り組んでいただきたいと思います。

そして未来に向けて何に取り組むか？

高専は地域と共にあります。地域の皆さんと課題意識を共有し合う、そのことにより本校と地域のつながりを強くしていく必要があります。これを実現するのが福島高専コモンズです。私はその場の設置を提案し実行しつつありますが、完成後は、イベントを定期的実施するとかの運営を充実させる必要があります。

また、新しい目標という意味では、カーボンニュートラルの社会連携講座を開始して、本校のみならず社会人の教育もスタートし、この地域の産業構造の魅力アップへ向け、また、新たに設置されるF-REIとの連携にも着手しました。新しい校長が更に取り組みを充実させてくれることと思いますが、福島高専は日本でトップレベルに注目度の高い高専になりうと思っています。持続可能な発展に向け本校教職員の皆様の奮闘を期待しています。

最後になりますが、5年間私の話を常に我慢強く聞いてくださり、実行につなげていただいた主事、副校長はじめ多くの先生方、事務部長はじめ職員の皆様に感謝を申し上げお別れの言葉といたします。



電気電子システム工学科 鈴木 晴彦

平成7年（1995年）に福島高専・電気工学科に着任し、この令和5年（2023年）3月で定年退職となります。教職員の方々の「温かさ」に、そして何よりも学生の「真面目さ」に支えられ、28年間、研究・教育に打ち込んでこれたことを感謝しております。「外に出る」を研究のポリシーとして、自身はもちろん、卒研生・専攻科生と共に国内外の多くの研究発表の場に参加できたことは、ひとりの研究者として幸せであったと思います。一方において、中学時代よりサイクリングを始め、大学時代は標高2000m級の峠を目指す「山岳サイクリング」をしていました。これも別な目的の「外に出る」なのですが、幸い福島高専には「サイクリング部」があり、そこで出会った学生部員と一緒に「乗鞍エコーライン」に挑戦し、「標高2716m（公道標高最高地点）」を3度走破できたことを誇りに思っています。4月から再雇用教員として研究・教育にこれまでと変わりに関わってまいります。また別な「外に出る」計画もしています。ありがとうございました。



都市システム工学科 原田 正光

本校着任は、昭和63年3月1日。高専に少しでも早く慣れようと、少し早めでの着任でした。飽きっぽい性格だったので、これまでと違う環境で少し前向きに取り組みたいという気持ちの表れだったのかもしれませんが。でもあれから35年、意外に辛抱強くやり過ごすことができたのではないかと考えています。あまり余計なことを考える余裕も無く過ごせたからかもしれません。先日、ずっと借りていた図書館の蔵書を返却させていただきました。教員室の書棚から一冊一冊手に取って整理をしていると、それらを最初に手にした時のこと、講義のネタに使用してきたこと等々、一冊一冊に歴史があることを思い出しました。実験室にある設備などを見ても、最近をよく目が留まり、同じような感傷に浸る時があります。福島高専で過ごした時間は、あっという間ではなかったということを改めて感じます。着任当時黒かった髪も今ではほとんど白くなっているのですから、当然かも。福島高専で、学生や教職員の皆様と共有させていただいた時間や皆様からいただいたさまざまな恩恵は、私にとって貴重な宝です。退職にあたり、皆さまに感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



ビジネスコミュニケーション学科 島村 浩

在職27年、担任した学生の子供を卒業させる歳になりました。還暦後の3年間は、新型コロナウイルス対応のDXな時間を過ごすことになりました。まさかこんな風になるとは…。着任直前に学校がインターネットに接続されて、その後のほとんどを情報処理教育センター関係の仕事に携わりました。汎用機の電子計算機室時代（この時代は知りませんが）からネットワーク、クラウド、セキュリティ、AI等、コンピュータの進化を身近に感じて過ごすことができました。校内ネットワークや演習室の入替など、教職員の皆様には何かとお世話になりました。ありがとうございました。学生の教育に関しては、やっぱり農業だなあと感じます。種の力（資質）、土、水、肥料、日光などの要因が、上手く噛み合って、ようやく実る第一次産業です。二十歳まで外の厳しさを知らぬ温室育ちが多いので、努めて外のコンテストやイベントに連れ出しました。「創造と実践」が売りの高専生には、高校生や大学生が経験できない、独自の体験をしてほしい、との思いからでした。幸い、何度か大きな大会で入賞することができたのが、いい思い出です。4月以降は、本科卒業後の専攻科生の様な感じですが、今しばらくお付き合いいただければ幸いです。また、よろしくお願いいたします。

退職者挨拶



ビジネスコミュニケーション学科 松江 俊一

縁あってコミュニケーション情報学科（ビジコミの前身）の非常勤講師として、第二外国語（ロシア語）の教鞭をとることになったのが平成9年の4月でした。コミュニケーション情報学科の第1期生が4年生の時でした。平成10年10月から本採用となり、ロシア語、貿易実務、セクレタリー及び卒業研究、部活動では主にバドミントン部の顧問を担当しました。教員になる前は地元いわき市のビジネスホテルの営業マンでしたので、学術的な知識がほとんどなく、教員になりたての頃は辛いこともたくさんありました。しかし歴代の校長先生をはじめ、教職員の皆様、学科教員の皆様の支えを得て、そして何よりも関わり合った学生の皆さんに助けをもらいながら楽しく教員生活を送ることができました。家族の支えもありがたかったです。これまでの人生は偶然の連続でしたが、偶然が必然に感じられる仕合わせを得ながら生活することができました。本当にありがとうございました。

4月からは勤務時間は短くなりますが、再雇用教員としてこれまで通り授業を通して学生や教職員のみなさんに仕えながら仕合わせを得ていけたらと思っています。今後ともこれまで通りよろしくお願いいたします。



一般教科 千葉 貴裕

これまで6年間、大変お世話になりました。一般教科の先生方をはじめ教職員の皆様方に支えられながらこの6年間で過ごすことができました。また、授業等を通じて学生の皆さんからも多くのことを教わったように思います。教えていたようで、実は私自身学んだことが多々ありました。福島高専の皆様へ心より感謝申し上げます。

私は本年4月から、東北大学学際科学フロンティア研究所の教員に着任します。新天地では、福島高専での経験を最大限に活かし、物理学・材料科学・情報科学を融合した新分野の創出に挑戦してまいります。最後になりますが、皆様のご健勝と福島高専のますますのご発展を祈念しております。6年間本当にありがとうございました。



一般教科 廣瀬 航也

2021年9月の着任以来、1年7ヶ月勤めた福島高専を退職する運びとなりました。私自身初めての常勤の研究・教育職であり、これまでにないほど充実した時間を過ごすことができました。これも、有形無形にご支援くださった教職員の皆様と、何より私の拙い話に熱心に耳を傾け、応えてくれた学生の皆さんのおかげです。心より御礼申し上げます。

学生の皆さんには、これから一生、勉学を続けてほしいと思っています。そして、常に本を読み続ける人であってほしいと思っています。学問も読書も、他ならぬ他者の思考に触れ、絶えず自分自身を作り変えていく営みです。自分自身を変革するということは、常に不安や恐れとともにあります。しかし、そのような営みをなくして幸福になることはできないと、私は信じています。

私もこのようなことを考えながら、福島高専での経験を生かし、次の職場でもたゆまず学問を続けていきたいと思っています。ともに頑張りましょう。最後になりましたが、教職員と学生の皆様のご活躍をお祈り申し上げます。

退職・転出者等一覧

●定年退職	校長		山下 治
	電気電子システム工学科	教授	鈴木 晴彦
	都市システム工学科	教授	原田 正光
	ビジネスコミュニケーション学科	准教授	島村 浩
	ビジネスコミュニケーション学科	准教授	松江 俊一
●辞 職	一般教科	講師	千葉 貴裕
	一般教科	助教	廣瀬 航也
●配 置 換	一般教科	講師	伊野 翔次（大分高専へ）
●転 出	学生課長補佐		藤原 清（一関高専へ）
	総務課施設管理係長		鈴木 香代（東北大学へ）
●再雇用期間満了退職		嘱託教授	松本 匡以

新任教職員紹介



化学・バイオ工学科 加藤 健

2022年10月より化学・バイオ工学科に着任致しました加藤健と申します。茨城県職員として茨城県産業技術イノベーションセンターを中心に16年間勤めたのち、国立研究開発法人物質・材料研究機構で2年半勤務しまして本校へ着任致しました。企業や大学、公的機関等と連携しながら、技術支援や研究などの業務を担い実践的な産業分野に触れながら勤めてまいりました。業務を通じて育んだネットワークや知見を反映しながら、少しでも皆さんの印象に残るような授業及び研究を行っていきたくと考えております。すでに授業や実験等の対応を行うなかで、皆さんのサポートをいただきながら進めさせていただいており非常にありがたく思っております。初心を忘れることなく、学生さんそして教職員の方々から謙虚に学びながら本校の次世代技術者育成を支えていきたいと考えております。よろしくお願い致します。



一般教科 郭 飛鴻

令和4年10月1日付けで一般教科に着任いたしました郭 飛鴻（台湾出身・乙女座・O型・辛い食べ物大好き）と申します。若い時に、世界史及び洋楽に対する関心を持ち、それが英語の勉強と研さんのきっかけでした。その後、自分の視界は英語力により次第に広くなりました。「knowledge of languages is the doorway to wisdom（言語の知識は知恵への扉である）」という言葉は僕にとって、座右の銘のような存在です。一方、僕の教育に対する理念は、「師者所以傳道授業解惑也〔師とは、道（＝理想とする人間のあり方）を伝え、知識や技術を授け、疑問や迷いを解くためのものである〕」です。また、「教学相長」こそ、これ以上ない喜びだと信じています。したがって、学生と苦楽を共に過ごし、「fun からinteresting へ」の英語教育を通じて、福島高専生の英語四技能の成長を支える「亦師亦友」的な教員を目指して、全力を尽くして参りたいと思います。どうぞよろしくお願い致します。

高等学校等就学支援金

高等学校等就学支援金制度とは、家庭の状況にかかわらず、全ての意志ある高校生等が安心して勉学に打ち込める社会をつくるため、国の費用により、生徒の授業料に充てる高等学校等就学支援金を支給し、家庭の教育費負担を軽減するものです。

国立高等専門学校（第1学年～第3学年）も就学支援金制度の対象となっており、定められた所得判定基準（年収910万円程度）未満の世帯に対して、月額9,900円（年額118,800円）の就学支援金が支給されます。

支給期間は原則として通算36月となっております。また、保護者の所得に応じて就学支援金の加算、または未支給となる場合があります。

なお、就学支援金は保護者全員の所得判定基準で判定します。「市町村民税の課税標準額×6%－市町村民税の調整控除の額」を基準に支給されるため、保護者等の失職、倒産等家計急変したときにすぐ反映されない場合があります。その場合、就学支援金制度とは別に、「家計急変支援制度」の対象となる場合がありますので、詳しくは学生課学生支援係にお問い合わせ下さい。

授業料免除制度

授業料の免除は、経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合に、前期・後期ごとに本人の申請（前期の授業料の免除申請の際に併せて、後期の申請も可能です。）に基づき選考のうえ、授業料の全額又は半額を免除する制度です。選考は免除選考基準により、家計・学力・人物について学生委員会で審議します。

経済的理由による授業料免除の対象となるのは、4年生・5年生・専攻科生となります。令和2年4月より、高等教育の修学支援制度へと移行しており、経済的な理由での授業料免除を希望する場合には、まずはこちらの制度への申請をすることとなります。

3年生以下につきましては、左記の高等学校等就学支援金制度が適用されるため、経済的理由による授業料免除の対象とはなりません。（ただし、授業料の各期の納付期限前6月以内の学資負担者死亡等、特別な事情が発生した場合は、例外的に授業料免除の対象となることがあります。）

経済的理由による授業料免除は、高等教育の修学支援制度の日本学生支援機構給付奨学金に申込んだ上で、給付奨学金の認定を受けた学生が対象となります。前期分は3月下旬～4月頃、後期分は9月頃が申請期間となっておりますので、掲示・メール等のお知らせを確認するようにしてください。

奨学制度・授業料免除制度・高等学校等就学支援金についてのお問い合わせは 学生課学生支援係まで TEL 0246-46-0870

行事予定(前期)

※新型コロナウイルス感染防止対策のため変更となる場合があります。

4月

4日(火) 入学式(本科・専攻科・編入学生)
5日(水) 始業式
新入生オリエンテーション
交通安全教室(1年)
専攻科ガイダンス(専1)
6日(木) 前期授業開始
7日(金) 特研オリエンテーション(専1)
12日(水) 全校・校外清掃日
13日(木) 定期健康診断(休講日)
27日(木) 開校記念日
29日(土) 公開授業・寮生保護者総会

5月

10日(水)～12日(金) 専攻科推薦入試願書受付
10日(水) 後援会総会・学級懇談会・寮生保護者個別面談会
19日(金) 専攻科推薦入試
29日(月)～31日(水) 前期中間試験期間

6月

1日(木)～7日(水) 前期中間試験期間
7日(水)～9日(金) 専攻科学力入試願書受付
17日(土) 専攻科学力入試
30日(金) 学生臨時休業(開校記念日の休日振替)

7月

1日(土)～2日(日) 東北地区高専体育大会
3日(月) 学生臨時休業(昭和の日の休日振替)
5日(水) TOEIC-IP(3年)
12日(水) インターンシップ事前指導会(4年)
26日(水)～31日(月) 前期期末試験期間

8月

1日(火) 前期期末試験期間・専攻科集会
1日(火)～3日(木) 編入学願書受付
2日(水) 集会
8日(火) 教室整備
9日(水) 補講日
10日(木) 閉寮
10日(木)～9月20日(水) 夏季休業
11日(金)～17日(木) 学校閉鎖
27日(日) 開寮

9月

5日(火) 編入学試験
8日(金) 補講日
11日(月)～13日(水) 再試験期間
21日(木) 集会・専攻科集会・情報モラル講座(全学年)
22日(金) 体験入学準備日(休講日)
23日(土)～24日(日) 体験入学
25日(月)～27日(水) CBT試験
26日(火)～27日(水) 学科行事日(4年)
28日(木)～29日(金) 校内体育大会

編集後記

福島高専「学校だより」第114号の発刊となりました。

本号は2022年度後半の記事を掲載していますが、各種大会への参加・発表、またシンポジウム、コンテスト、資格試験による多くの「表彰」が紹介されています。また11月3日「福島高専60周年記念式典」が多くの来賓を迎え挙行されました。その2日後の11月5日には、4年ぶりに来場者を迎えた「磐陽祭2022」がコロナ感染対策を施しながらも開催されたことで、学生生活の日常が戻ってきた感を抱きました。最後になりますが、山下校長先生をはじめ多くのご退職者からのご挨拶をいただきました。本校における教育・研究に対するご尽力の一端を知ることができます。ご高覧いただきますようお願い致します。